

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972100337		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム せんだんの里		
所在地	高知県香南市野市町中ノ村770番地1		
自己評価作成日	平成24年5月8日	評価結果 市町村受理日	平成24年7月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の立地状況として、幼稚園・保育所、小学校が近隣にあり、運動会や夏祭り等行事への参加が毎年恒例となっている。長閑な環境ではあるが、子供たちの元気な声に入居者が和める場所となっている。地域の行事へも積極的に参加し、地域住民との交流も継続して行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokouhyou.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JGD=3972100337&amp;SCD=320&amp;PCD=39">http://www.kai gokouhyou.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JGD=3972100337&amp;SCD=320&amp;PCD=39</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成24年6月13日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は田園の中に新興住宅地が広がり、近隣に小学校、保育園、幼稚園があるなど、地域密着型サービス事業所として地域との関係を継続するための環境に非常に恵まれている事業所である。その環境を有効利用して、事業所からは小学校の運動会や敬老会等の行事に参加し、地域の子供達も下校時に声をかけてくれたり、歌やクリスマスのおし物を披露するために訪問してくれるなど、日ごろから密接な交流が図られている。事業所の特色としては、恵まれた立地条件を活かした地域住民との交流の他に、法人の方針である低所得者、重度の要介護者の受け入れが多いことが挙げられ、利用者の平均介護度が3以上という状況の中で、介護の仕事が好きという職員のやる気と管理者を中心としたチームワークが日々のケアの支えとなっている。明るく笑い声の絶えない事業所である。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: すいせん

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛と笑顔と思いやり」という基本理念の基、管理者・職員は職員会にて理念に沿ったケアを行っていくよう話し合い、実践できるよう努めている。	「愛と笑顔と思いやり」という基本理念に基づき、地域との触れ合いの中で、近隣から親しまれ愛されるホームを目指している。事業所内の目につくところに理念を掲示し、職員会などの時に確認し合い、地域や家族との交流に力を入れ、日々のケアに努めている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加している。また、近隣の幼稚園や小学校との定期的な交流も行っている。	事業所として地域の一斉清掃や防災訓練に参加し、利用者も敬老会や小学校の運動会に出向くなど、地域との交流に努めている。また、幼稚園と小学校が隣接しており、下校時に子供達が立ち寄ってくれたり園児が来訪して歌やクリスマスのおし物を披露してくれるなど、日常的に密接な交流を図っている。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の総会等にて、認知症の相談等気軽に相談できるよう事業所としてアピールしている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見や検討事項について職員会で報告、検討している。いただいた意見に対しては実行出来るように取り組み次の会で経過報告している。	運営推進会議では評価結果以外にも事故報告の内容と対策、研修の仕方の話し合いなどを行い、具体的に職場内での研修結果の伝達の充実や将来的に家族会でも発表することを検討するなど、サービスの質の向上につなげる取り組みを行っている。	
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での報告はもちろんのこと、日々のケアでの困難事例等市町村との連携が図れるよう努めている。	市の担当職員や地域包括支援センターの職員とは、困難事例の相談以外にも、地域内で待機状態にある住民の状況や家族の状況等についても連絡を取り合い、事業所の運営に活かしている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体での身体拘束のマニュアルを基に、身体拘束をしないケアが実践できるよう努めている。また、職員への教育も定期的に行いケアの統一を図っている。	3か月に1回は、身体拘束をしないケアに係る法人内の研修があり、その内容を職員会でも説明して、職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中、玄関の施錠は行わず、チャイムが鳴れば職員がすぐ駆けつけて同行するなど、利用者の安全管理に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者防止法について、随時話をし虐待の徹底防止に努めている。管理者は職員の様子にも気を配り話をする機会を持つように心掛け、働く側のストレスについても見逃すことのないよう気をつけている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度等が必要な入居者については、管理者が市町村等に出向き対応する体制をとっている。また、職員にも制度を理解するよう勉強会を行っている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・入居契約書等を基に、ご家族が不安を持つことのないよう、不明な点はないか尋ねながら説明を行っている。入居前や面接時にも事前に出来る説明を出来る限り行うよう努めている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の介護場面、ご家族の来訪時に職員が意向を聞いたり、意見を言いやすい環境を作っている。運営推進会議にも参加して頂き市町村や家族、地域の方にも入居者の意見や要望を表せる機会を作っている。	家族会を年4回実施し、家族だけで話し合える機会も設けている。家族だけの話し合いの時も、内容を家族代表がまとめ、家族会の記録として残し、職員会でも報告している。家族の意見としては、外出支援の仕方や外出先の希望などが多いが、家族へ手紙を出す時の支援依頼などもあり、それらの内容は直ぐに運営に反映させている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議にて意見を聞くようにしている。また、日々の業務中でも気軽に意見が言えるような環境を作り職員の意見を反映させた運営を心がけている。	毎月の職員会で職員から意見を汲み上げるようにしている。利用者の気持ちや希望をより把握し易くするため休憩時間をずらしたり、利用者の気持ちの安定を図るために中庭の畑で野菜と一緒に作るようにするなど、職員からの提案を受け、運営に反映させている事例も多い。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や業務状況を把握し、無理なく業務がこなせるよう努めている。また、勤務表も職員の希望を聞き出来る限り反映している。向上心を持って働けるよう日々の声かけも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には、出来る限り参加しており、内容に関して資料などを使って他のスタッフにも情報の共有をおこなっている。新規雇用の職員には、必ずオリエンテーションを行い、法人内の新人研修や外部研修にも参加できるようにしている。職場内では先輩職員から随時実践のアドバイスが受けれるようシフト組み、職員同士の切磋琢磨が図れるように努めている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会に積極的に参加を促し、同業者との交流が図れるように努めている。また、研修内容を報告してもらい実践に生かせるよう努力している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時には事前に家族や担当職員から情報を得た上で本人と面接し、ゆっくり話をする時間を作っている。まずは、困っている事が無いかわい安心できるような言葉がけをしている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時に十分な時間を取りこれまでの経過について話を聞くようにしている。困っていること、不安に思っていること等家族の立場になって話を伺うようにしている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに受け入れが困難な時には、市町村の窓口や他の施設を紹介するなど、対応を行っている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中でも入居者に教えてもらうことも多い。一緒に活動することで、「おふくろの知恵」を職員が覚えることがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時や家族会の折には、入居者の様子や日頃の職員の思いについて伝え協力いただいている。また、月1回のせんだん便りにて近況を報告している。		
20	(8)	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望により、友人等が面会に来ていただけるようご家族や友人の方に協力して頂いている。入居時には、生活歴や人間関係等の把握に努めている。	利用者の希望があればドライブに出掛ける時に生まれ育った家の近くに立ち寄るなど、馴染みの関係継続に努めているが、地域の環境変化により、馴染みの場所等へ出かける機会が少なくなっている。また、友人、知人等馴染みの人に事業所を訪問してもらうよう協力依頼しているが、訪問頻度は少ない。	環境の変化や時間の経過に伴う馴染みの場所や人の変化に対応するため、新たな情報の収集等により情報の更新を行うとともに、収集した情報を有効利用できる記録方法の工夫を行うなどして、馴染みの関係継続に役立てることを期待したい。
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の人間関係に留意し、食堂の席や居室の場所に配慮することで、トラブルを防止している。食事中も入居者の間に入り、関係が円滑になるように心掛けている。		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合は、管理者や職員が出来る限り訪問するよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中で本人の思いを把握するように努めている。ご家族の来訪時にも話を伺い、本人の把握に努めている。また、日々の表情や振る舞いにも注意し観察をする。	入居時の聞き取りだけでなく、日々の生活の中でも利用者の思いを聞き、意向の把握に努めている。家での生活が一番楽しいという利用者が多いなかで、その希望を直接叶えることは本人や家族の状況から難しいとしても、家族の協力も得ながら外泊やお墓参りをすることにより、少しでも利用者の希望に沿えるように努めている。	
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人、ご家族を含め生活歴や本人の情報、経験などを聞き、台帳を作成し全スタッフが把握できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の癖や生活パターンを観察し、心身状態の変化をみている。職員間で共通認識をもち、援助方法を検討しながら介護するよう努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会にて、評価やカンファレンスを行い日々の介護での意見をケアプランに反映できるよう強めている。	介護計画作成に当たっては、近くの家族とは面会の時に話し合い、遠方の家族の場合は帰省時あるいは電話で話をするなどして意向を確認している。職員からは職員会で意見を聞き、それに基づき管理者がまとめており、見直しは3か月ごとに行っている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や日誌記録等すべてにおいて電子処理を行っている。簡単な操作で、情報の共有が図れている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族のその時の状況に応じ、対応をしている。介護計画の見直しを行い、その人がその人らしい生活ができるよう、また家族が安心して就労や生活が過ごせるよう努めている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市町村独自のサークル等の紹介は受けているが、今のところ参加するまでは至っていない。今後は参加できるよう取り組んでいく。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の訪問診療や病状に応じて専門科への受診対応は行っている。定期的な受信に対しては基本的にご家族に依頼しているが、ご家族の都合にて随時職員が対応している。	入居時に協力医療機関をかかりつけ医としており、月2回往診を受けている。専門医への受診の場合も職員が付き添う場合が多い。家族が付き添って受診した場合でも帰りに事業所に立ち寄った時に受診結果を聞き、情報を共有して、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を取っており、日々の健康管理や体調不良時の報告を行い、随時対応してくれている。また、主治医との連携も密に行っている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日頃の対応の仕方や様子を情報提供し、入院中は職員が様子を見に行き、回復状況の把握に努めている。また、ご家族とも連絡を取り合い早期退院に向け取り組んでいる。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、主治医、看護師との連携を図り、ご家族やご本人の希望に沿った対応が出来るよう努めている。	入居時に重度化した場合の指針を説明し、その後も利用者が年を重ね入居時と状況が変わってきた時などに話し合いを行い、本人家族の意向を踏まえた支援を行うように努めている。今までに看取りの事例は無いが、希望者は数名おり、主治医、看護師等を含め関係者が連携して取り組める体制は整えている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が、救急救命法を受講している。また、職員会でも緊急時の対応等職員間で徹底を図っている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回入居者も参加した避難訓練を行っている。地域の防災訓練にも参加し、災害時の協力をお願いしている。	年2回避難訓練を実施している。避難訓練には地域の代表が参加しているが、一緒に利用者の避難支援をするまでには至っていない。非常用食料等については必要量を準備している。	災害時の避難には地域住民の協力は欠かせないものである。特に夜間の暗闇の中では、近隣であるとは言っても避難場所である小学校までの避難支援は、夜勤者だけでは不可能であり、地域住民(近隣に住む従業員家族も含め)の協力を得て、夜間想定避難訓練を実施することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症についての勉強会を毎月行い、対応の仕方等職員の意識改革の機会を設け、実践している。	利用者の人格の尊重やプライバシーの確保等については、主に法人の研修会で介助方法や声掛けの仕方などについて職員が学ぶ機会を設けており、意識の向上と徹底に努めている。日常のケアの場面でも、利用者の訴えを直ぐに聞けないような忙しい場合の対応や普段の何気ない言葉使いなどについてもその都度再確認を行い、利用者のプライバシーや人格を尊重した支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から入居者の状態に合わせた声かけを行っている。希望や思いを引き出せるように複数の選択肢をあたえられる声かけを行うよう努めている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所内の一日の流れはあるが、入居者一人一人のペースに合わせたケアを行っている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の意向に添い、服装や整髪等確認しながら行うよう努めている。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付け等可能な活動を促し、職員と一緒にしている。出来たことへの自信にもなっている。	献立は法人の栄養士が作成しているが、2週間先のメニューをFAXで受け取る時に内容の変更ができるようになっており、水分を補給する為に汁物を付けるなど、利用者に合わせた変更を行っている。食事の準備等については、できる人が配膳や後片づけを行い、食事中も職員が利用者に寄り添い、やさしく声かけをして、楽しく食事できるように支援している。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立により、バランスの取れた食事を提供している。入居者一人一人の嗜好も取り入れている。水分摂取もこまめに行い、毎日必要量無理なく摂取できるよう努めている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを見守りや声かけを行い、実践している。義歯の消毒も週1回行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間誘導や声かけを行い、出来るだけ失禁回数が減りトイレでの排泄が可能となるよう努めている。また、排泄用品の使い分けをし自立に向けた取り組みも行っている。	職員は個々の利用者の排泄パターンや習慣をチェック表で把握しており、吸引力の違うパットの使い分けやポータブルトイレの利用などにより、排泄の自立に向けた取り組みを行っている。入居してから紙パンツから布パンツに移行した利用者も数名いる。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や体を動かす事で、自然排便ができるように取り組んでいる。毎日の排便チェックにて、必要に応じ緩下剤を使用し便秘の解消を図っている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制を取っている。午後からの入浴であるが、必要に応じいつでも入浴できるように努めている。	基本的な入浴予定時間帯は決めているが、利用者の希望や体調を考慮し、柔軟に対応している。毎日入浴できる態勢は整えており、清潔を保つために毎日入浴する場合もある。最低でも3日に1回は入浴できるようにしており、現在入浴を拒否する利用者はいない。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動を促し、生活リズムを整え夜間良眠出来るように支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人の内服内容の一覧を作成し、確認を行いながら服薬介助をしている。臨時薬等の申し送りも徹底している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の整理等、可能な活動を促し役割を持ってもらうことで張り合いのある日常生活が過ごせるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時は、散歩に出かけたりしている。年間行事にて、出来る限り外出の機会を設け気分転換を図っている。	利用者の希望が異なるため、日常的な外出は1日数回に分けることもあるが、散歩に出かけたり、出歩けない利用者のために、中庭の畑の作物を見ながら外気に触れるなどの工夫をして支援している。その他にも、家族等の意向も入れ毎月ドライブに出かけ、年1回は法人のグループホームが合同で花見に行くなど、積極的に外出支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な入居者はおられず、個人の買い物も職員が代行するか、ご家族の方に依頼し購入してもらっている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙等は入居者の方に手渡しているが、電話の対応はほとんどない状態である。ご家族の方に出来る限りの面会は依頼している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りをしたり、食事も季節の食材を工夫して提供するなど配慮している。	玄関、廊下、居間は清潔に保たれ、食堂の机や椅子は利用者同士の関係等を考慮して配置を工夫し、利用者が足を伸ばせるような和室を設けるなど、居心地良く過ごせるように努めている。また、普段の生活の中で利用者に季節を分かってもらえるよう、壁の飾り付けも季節感が出るように工夫している。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士が指定席にて話をし、楽しく過ごしている。新聞を読んだり、テレビを視聴したり一人になれる時間も持っている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や仏壇を持って来られている方もあり、一人一人の好みに合わせた居室で過ごしていただいている。	法人内のグループホームとしては早い時期に建った事業所であり、非常にシンプルな作りの居住スペースである。入居して間が無い利用者の居室は身の回りの物しか置いていない所もあるが、本人が慣れるに従って徐々に物を増やしていくとのことであり、その他の部屋は使い慣れたタンス、テレビ、ご主人の位牌と遺影、ひ孫の写真など思い思いのものを置いたり飾ったりして、それぞれ居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや段差のない環境ができ安全な対応を行っている。場所が分からない時は付き添い、できること・わかることは自立を促している。		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:ひばり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛と笑顔と思いやり」という基本理念の基、管理者・職員は職員会にて理念に沿ったケアを行っていくよう話し合い、実践できるよう努めている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加している。また、近隣の幼稚園や小学校との定期的な交流も行っている。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の総会等にて、認知症の相談等気軽に相談できるよう事業所としてアピールしている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見や検討事項について職員会で報告、検討している。いただいた意見に対しては実行出来るように取り組み次の会で経過報告している。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での報告はもちろんのこと、日々のケアでの困難事例等市町村との連携が図れるよう努めている。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体での身体拘束のマニュアルを基に、身体拘束をしないケアが実践できるよう努めている。また、職員への教育も定期的に行いケアの統一を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者防止法について、随時話をし虐待の徹底防止に努めている。管理者は職員の様子にも気を配り話をする機会を持つように心掛け、働く側のストレスについても見逃すことのないよう気をつけている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度等が必要な入居者については、管理者が市町村等に出向き対応する体制をとっている。また、職員にも制度を理解できるよう勉強会を行っている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・入居契約書等を基に、ご家族が不安を持つことのないよう、不明な点はないか尋ねながら説明を行っている。入居前や面接時にも事前に出来る説明を出来る限り行うよう努めている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の介護場面、ご家族の来訪時に職員が意向を聞いたり、意見を言いやすい環境を作っている。運営推進会議にも参加して頂き市町村や家族、地域の方にも入居者の意見や要望を表せる機会を作っている。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議にて意見を聞くようにしている。また、日々の業務中でも気軽に意見が言えるような環境を作り職員の意見を反映させた運営を心がけている。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や業務状況を把握し、無理なく業務がこなせるよう努めている。また、勤務表も職員の希望を聞き出来る限り反映している。向上心を持って働けるよう日々の声かけも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には、出来る限り参加しており、内容に関して資料などを使って他のスタッフにも情報の共有をおこなっている。新規雇用の職員には、必ずオリエンテーションを行い、法人内の新人研修や外部研修にも参加できるようにしている。職場内では先輩職員から随時実践のアドバイスが受けれるようソフト組み、職員同士の切磋琢磨が図れるように努めている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会に積極的に参加を促し、同業者との交流が図れるように努めている。また、研修内容を報告してもらい実践に生かせるよう努力している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時には事前に家族や担当職員から情報を得た上で本人と面接し、ゆっくり話をする時間を作っている。まずは、困っている事が無いか伺い安心できるような言葉がけをしている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時に十分な時間を取りこれまでの経過について話を聞くようにしている。困っていること、不安に思っていること等家族の立場になって話を伺うようにしている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに受け入れが困難な時には、市町村の窓口や他の施設を紹介するなど、対応を行っている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中でも入居者に教えてもらうことも多い。一緒に活動することで、「おふくろの知恵」を職員が覚えることがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時や家族会の折には、入居者の様子や日頃の職員の思いについて伝え協力いただいている。また、月1回のせんだん便りにて近況を報告している。		
20	(8)	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望により、友人等が面会に来ていただけるようご家族や友人の方に協力して頂いている。入居時には、生活歴や人間関係等の把握に努めている。		
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の人間関係に留意し、食堂の席や居室の場所に配慮することで、トラブルを防止している。食事中も入居者の間に入り、関係が円滑になるように心掛けている。		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合は、管理者や職員が出来る限り訪問するよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中で本人の思いを把握するように努めている。ご家族の来訪時にも話を伺い、本人の把握に努めている。また、日々の表情や振る舞いにも注意し観察をする。		
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人、ご家族を含め生活歴や本人の情報、経験などを聞き、台帳を作成し全スタッフ把握できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の癖や生活パターンを観察し、心身状態の変化をみている。職員間で共通認識をもち、援助方法を検討しながら介護するよう努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会にて、評価やカンファレンスを行い日々の介護での意見をケアプランに反映できるよう強めている。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や日誌記録等すべてにおいて電子処理を行っている。簡単な操作で、情報の共有が図れている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族のその時の状況に応じ、対応をしている。介護計画の見直しを行い、その人がその人らしい生活ができるよう、また家族が安心して就労や生活が過ごせるよう努めている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市町村独自のサークル等の紹介は受けているが、今のところ参加するまでは至っていない。今後は参加できるよう取り組んでいく。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の訪問診療や病状に応じて専門科への受診対応は行っている。定期的な受信に対しては基本的にご家族に依頼しているが、ご家族の都合にて随時職員が対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を取っており、日々の健康管理や体調不良時の報告を行い、随時対応してくれている。また、主治医との連携も密に行えている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日頃の対応の仕方や様子を情報提供し、入院中は職員が様子を見に行き、回復状況の把握に努めている。また、ご家族とも連絡を取り合い早期退院に向け取り組んでいる。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、主治医、看護師との連携を図り、ご家族やご本人の希望に沿った対応が出来るよう努めている。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が、救急救命法を受講している。また、職員会でも緊急時の対応等職員間で徹底を図っている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回入居者も参加した避難訓練を行っている。地域の防災訓練にも参加し、災害時の協力をお願いしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症についての勉強会を毎月行い、対応の仕方等職員の意識改革の機会を設け、実践している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から入居者の状態に合わせた声かけを行っている。希望や思いを引き出せるように複数の選択肢をあたえられる声かけを行うよう努めている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所内の一日の流れはあるが、入居者一人一人のペースに合わせたケアを行っている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の意向に添い、服装や整髪等確認しながら行うよう努めている。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付け等可能な活動を促し、職員と一緒にやっている。出来たことへの自信にもなっている。		
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立により、バランスの取れた食事を提供している。入居者一人一人の嗜好も取り入れている。水分摂取もこまめに行い、毎日必要量無理なく摂取できるよう努めている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを見守りや声かけを行い、実践している。義歯の消毒も週1回行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間誘導や声かけを行い、出来るだけ失禁回数が減りトイレでの排泄が可能となるよう努めている。また、排泄用品の使い分けをし自立に向けた取り組みも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や体を動かす事で、自然排便ができるように取り組んでいる。毎日の排便チェックにて、必要に応じ緩下剤を使用し便秘の解消を図っている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制を取っている。午後からの入浴であるが、必要に応じいつでも入浴できるように努めている。		
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動を促し、生活リズムを整え夜間良眠出来るように支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人の内服内容の一覧を作成し、確認を行いながら服薬介助をしている。臨時薬等の申し送りも徹底している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の整理等、可能な活動を促し役割を持ってもらうことで張り合いのある日常生活が過ごせるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時は、散歩に出かけたりしている。年間行事にて、出来る限り外出の機会を設け気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な入居者はおられず、個人の買い物も職員が代行するか、ご家族の方に依頼し購入してもらっている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙等は入居者の方に手渡しているが、電話の対応はほとんどない状態である。ご家族の方に出来る限りの面会は依頼している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りをしたり、食事も季節の食材を工夫して提供するなど配慮している。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士が指定席にて話をし、楽しく過ごしている。新聞を読んだり、テレビを視聴したり一人になれる時間も持っている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や仏壇を持って来られている方もあり、一人一人の好みに合わせた居室で過ごしていただいている。		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや段差のない環境ができ安全な対応を行っている。場所が分からない時は付き添い、できること・わかることは自立を促している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				